

2013年

業界・組合リーダーの 年頭所感

新年を迎え、業界並びに中小企業組合のリーダーの皆様、業界の現状、新年の展望等について、ご寄稿いただきました。

(順不同・敬称略)



製造業

群馬県コンクリートブロック

事業協同組合

理事長 町田 錦一郎

新年明けましておめでとございます。旧年中は格別なるご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本年の干支は巳(蛇)であります。蛇は執念深く嫌われがちな動物ですが、巳年の五行は「火」であり、すべてを燃やす躍動を表し、また、火の色は「赤やオレンジ」で光り輝く炎の元でもあります。光り輝くためには蛇の脱皮の様に古い習慣や考え方を脱し、進歩させて行くことが必要なのです。

当組合としては、エネルギー対策に有効な完全気密で外断熱省エネ住宅の活用推進を図って参ります。ブロック住宅の特徴は、耐久性・断熱性・耐震・耐火に優れた特徴を持ち、工費が一般木造住宅と同等なため、今後の住宅普及に適していると考えております。

本年も会員の皆様のご協力を得

ながら事業に邁進させて頂きますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

前橋機械金属工業協同組合

理事長 吉田 勝彦

①業界の現状、問題点及び新年の展望

リーマンショック以降、取り巻く経済環境はなかなか改善せず、回復基調に見えた自動車産業も、一昨年の大震災で立ち上がりにブレーキがかかり、その後、タイの洪水でまたもや減速を強いられました。震災の反動もあり、ようやく増産というところで、今度は尖閣問題における日本製品不買運動が起こり、トヨタ・日産・ホンダといった日系メーカーは生産調整に苦慮しております。

また、大手家電メーカー、パナソニックやシャープの巨額の赤字やリストラも、今後の雇用情勢を考えると大きな問題になってくると思います。

当組合におきましても、仕事量が半分になった、3分の1になったという企業が多く、大変深刻な状況となっております。2013年は大手の更なる生産拠点の縮小、海外移転が加速し、ますます厳しい状況になってくる事が憂慮されます。

②中小企業の活性化に必要な施策
全国的に仕事量の減少に歯止めがかかりません。モノづくりを中心とした製造業では、雇用はもちろん、国策として仕事を作り出す新しい政策を早急に立案・実行してもらいたいと思います。

また、中小企業金融円滑化法が3月末をもって終了します。期限となりましても、中小企業の業況、資金繰りは依然として厳しいことが予見できますので、これに代わる新しい臨時処置に関する法律の成立も急いでいただきたいと考えます。

③特筆する組合事業

決して困った時の神頼みではありませんが、昭和45年から毎年行われている伊勢奉賛会（伊勢参り）があります。組合員企業の商売繁盛・家内安全・健康祈願のため、毎年2月の最初の週にお参り

し、組合員の団結力・結束力を高めています。

また、昨年度からは外部講師による各種研修会も行い、組合員の自己研鑽、相互理解を深めております。

群馬県管工設備協同組合

理事長 串田紀之

新年明けましておめでとございます。

今、私達を取り巻く社会環境や価値観が大きく変わっています。この時代の変化にどのように乗ることが出来るかが私達に課せられた大きな課題であると思います。どこの組合も共通して言えることは、先が見えない中での不安などから、事業撤退による会員減少が顕著なことです。

しかし、変化をチャンスととらえていけば、まだまだ道は拓けるのではないのでしょうか。私達の親世代が創業した時代背景とは大きく異なり、旧態依然の取り組みを改めた考え方・手法を導入することにより活路を見出し出していくためにビジョンを設定して具体的行

動へとつなげる、その切り口として生活環境、エネルギーがあります。この様に考えると、建築物に対して私達は大きなポジションを持つ訳です。

こうしたことを念頭に置きながら、活動を続けていきたいと思っております。

桐生織物協同組合

理事長 後藤隆造

関係の皆様には、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年における日本の経済は、前年から引き続き、歴史的な円高の進行や欧州の債務危機の顕在化等による世界経済の減退により、景気回復の推進が厳しく制限される年でありました。当産地にあつては、一部には大震災の影響から立ち直る気配を見せる製品も見受けられたものの、大方の製品は、消費の低迷や低価格路線などの影響を受け、更に厳しくなる環境に苦慮している状況が続いております。

このような産地状況の中ではありますが、昨年8月には地元行政

の支援を受けて、織物記念館（旧館）の2階に、念願であった「織物資料展示室」を開設し、併せてこの1階で当組合が運営する「桐生織物販売場」の拡充・拡大のためリニューアルを行いました。

本年は、これらの施設を積極的に活用し、産地製品を内外に強くアピールし産地の活性化を図るとともに、「織物の街・桐生」の拠点として、地元観光に対し積極的な協力を行いたいと考えております。

また、当然のことながら、本年もこれらの活動を基に、伝統と歴史が証明する産地の技術を十分に発揮させ、魅力ある製品を開発するとともに、これらの製品を市場に送り出すため、積極的な事業を展開して参ります。

組合員企業の繁栄のため鋭意努力して参りたいと存じますので、関係の皆様には、一層のご指導・ご支援をお願い申し上げます。

太田機械金属工業協同組合

理事長 坂本正堂

長引く欧州の財政危機は、新興

国の経済にも影響を及ぼし、世界経済を牽引する中国やインドの経済成長の減速の一因とも言われています。

また、中国との領有権問題による日中間貿易の冷え込みは深刻さを増しており、さらに原発事故による代替エネルギーのコスト高による電力料金の高騰、加えて、3月末の金融円滑化法の打ち切りは多くの中小企業への影響が懸念されています。依然続く、為替の高止まりは、新興国とのコスト競争にさらされています。

こうした中で我々が生き残っていく道は、高品質・低価格でトップレベルなものを目指すことがポイントになってきます。このためには、新たなものを生み出す人材育成が大きな課題であり、積極的な取り組みが求められてきていると考えています。

群馬県生コンクリート工業組合

理事長 小林 美知夫

明けましておめでとうございます。景気は、デフレの長期化、政界

の混乱、東日本大震災での原発等の影響、EUの金融危機などの状況にあり、日本経済は先行き不透明な大変厳しい環境に置かれています。

当業界は「東日本大震災」からの教訓で、「コンクリートは人の命を守る」ことを実感したところでもあります。厳しい状況下ではありますが、需要拡大事業として「白舗装（コンクリート舗装）」を推奨して参ります。各官庁におかれましても、耐久性に優れた「白舗装」は認識されており、業界として強力に推進して参りたいと考えております。

終わりに、皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。

群馬県鍍金工業組合

理事長 光山 紘

謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年より長引いている不況の中、輸出に依存している我が国にとつ

て、隣国である中国における排日運動により、経済的打撃を受け、

輸出の激減、景気の悪化等々、我々めつき業界も厳しい状況に置かれております。

こうした舵取りが非常に難しい時代において、当組合は、業界をリードする人材育成や新しい製品開発・技術開発を推し進め、更に経営の合理化を図ることにより、事業の成長につなげていく力を養える情報媒体でありたいと考えています。

また、「水と空気を大切にすること」意識の高揚を図りつつ、環境に配慮したものづくりと環境保全対策等を推進するとともに、環境と共生するめつき企業を目指す年にしたいと思っております。

群馬県パン協同組合

理事長 内藤 達雄

あけましておめでとうございます。新年のご挨拶を申し上げます。

日本は今、大震災からの復興、放射能への不安や電力不足、円高による経済への影響等、いろいろな課題を抱えています。

パン業界は有事の際、多くの人々に役立つことが証明され、パ

ンの消費量が少ない東北地方でパンの持つ「幸せ感」を受け止めてもらうことができたのであれば、業界人としてこれほどありがたいことはないと思います。

厳しさが増す今後も一丸となつて業界の将来を見据え、様々な人に笑顔を提供していきたいと思っております。

群馬デリ力食品協同組合

理事長 江原 寛一

新年明けましておめでとうございます。昨年は、ヨーロッパの金融危機問題でドル安ユーロ安、そして我が国は韓国、中国との領土問題で経済に大きな打撃を受けた年でもありました。今年も、引き続き政治経済が激動する年であると思

います。我々食品業界も、昨年に増して競争の激化が予想され、企業の明暗が鮮明になると思います。当組合としても、組合員の結束を密にし、知恵を出し、日頃から業界情報の収集、そして健康で安全安心、信頼される商品作りの

ための研修、さらには組合員同士のコミュニケーションを図りながらお客様のニーズに応えられるよう頑張つていきたいと思ひます。今年こそ、明るい年になりますよう関係機関のご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

伊勢崎織物協同組合

理事長 田村直之

新年明けましておめでとうございます。世界の経済情勢は、円高や欧州経済の債務問題等、依然先行きが不透明な状況が続いております。

近年、機能重視の安価な大量生産品が普及し、消費者ニーズの多様化とともに産地を取り巻く環境は依然厳しい環境が続いております。こうした中、我々は産地伝統の技術・技法を活かして、高付加価値商品の研究開発や新分野の進出等に取り組んでおります。

当組合では、産地振興のための伝統的工芸品「伊勢崎緋」、「伊勢崎銘仙」をはじめ、産地商品の各種販売会・展示商談会等を開催し、一般消費者を対象とした「伊勢崎

絆手織体験教室」も開催するなど、和装に対する理解と愛着を深める機会としております。

さらに、歴史と伝統ある技術・技法を継承するために、後継者の育成にも積極的に努めて参りますので、今後とも関係各位のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

群馬県製麺工業協同組合

理事長 星野陽司

世界経済が混沌とする中、国内においては、円高とともに景気は後退局面に入り、消費者の節約志向は一段と強まり、個人消費は震災後更に大きく落ち込んでいます。このような中、我々製麺業界も販売量が低迷し、主原料の小麦粉価格をはじめ副資材や重油などのエネルギー価格の高騰等もあつて大きな負担となっております。

こうした状況下ではありますが、消費者が求める「安全と美味しさ」を追求し、国民の主食の一端を担っている業界として、美味しく、安全で価値ある製品を提供していくことが私たちの基本であります。

昨年は、組合のホームページを開設し、また、「週刊文春」に「美味しい上州のうどん」の広告を4回掲載するなど、群馬県のうどんの美味しさを多くの生活者にアピール致しました。

非製造業

群馬県ビルメンテナンス協同組合

理事長 永井克弘

あけましておめでとうございます。昨年は、なかなか良い話もなく、暗い1年を必死に歯を食いしばり、切り抜けて参りました。ここ数年、年明けには少しくらい明るい兆しが期待できるのではと、微かな望みで新しい年を迎えて参りました。

大震災から2年、なかなか進まなかつた復興も進捗の兆しが見えて参りました。陣頭指揮するトップも日本をはじめ、世界が動き始めました。トップの交代が景気を押し上げるとは思いませんが、我々は少しでも何かが変わればと

本年も積極的に宣伝活動を実施し、麺食を通じての家庭づくりや人々のコミュニケーションづくりなど、生活者の食の豊かさや麺を通じた食文化の向上に努めて参ります。



期待を抱くものです。

平成25年は大きく舵取りがなされ、上向きの景気へとどうやら期待がもてそうな気がします。そんな巴年になつてもらいたいと会員一同祈念しております。

なお、昨年は全国大会において、当組合が全国中小企業団体中央会会長から優良組合として表彰を受けることができましたことに感謝を申し上げます。

群馬県高圧容器整備協同組合

理事長 遠藤祐司

謹んで新年のお慶び申し上げます。

東日本大震災と福島第1原発事故という未曾有の災害を受け、日本経済に大きな影響をもたらして

から、早や2年が経過しようとしておりますが、被災地復興も思うように進まず、その取り組みを最優先課題として被災地の皆さんが1日でも早く復興できることが切に望まれます。

変革する国際情勢の中で、我が国経済も極めて厳しい状況にあり、欧州の債務危機・為替変動・産業の空洞化・外交問題・政局不安等、先行き不透明な案件ばかりで、予断を許さない状況が続くものと思われまます。

当業界も規制緩和の影響をもちに受け、また、供給構造の変革により、容器再検査も減少に転じ、厳しい状況で推移致しております。当組合ではこのような状況を克服するため、更なるコスト削減、知恵と努力により安定した財務基盤を確立すべく邁進しております。クリーンなエネルギー、災害時に強いLPガスを扱う業界の一助として、保安の確保を最重点課題とし、LPガス供給業界に貢献すべく、この局面を乗り切つて参る所存です。

今後とも皆様方のご支援と関係機関各位のご指導を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

群馬県柔道整復師協同組合

理事長 櫻井 弘

新年明けましておめでとうございます。

中央会には何かとお世話様になり、心から感謝申し上げます。

私どもの協同組合は、社団法人群馬県接骨師会の会員を中心に組織されておりまます。近年、規制緩和の影響で柔道整復師養成校が14校から106校（大学8校、専門学校98校）に増えてしまいました。結果、接骨院開業者の乱立で廃業者も出るような状態にあります。この状況を何とかしても打開しなければなりません。組合には500人に及ぶ組合員がおります。数の多いことで何が有利に行えるかをテーマに、経済基盤拡大を目指して参ります。

本年も変わらぬご指導、ご厚誼のほどをお願い申し上げます。



群馬県商店街振興組合連合会

会長 今川 守

新年あけましておめでとうございます。

さて、依然として景気回復への糸口が見えぬ中、地域中小事業者を取り巻く経営環境は、極めて厳しい状況にあります。とりわけ、中心商店街では、来街者の減少や転廃業・後継者難による空洞化などにより、「まち」の活力低下が懸念されております。

しかし、まちは、そこで暮らす人々の大切な財産であり、まちの賑わいなくして、地域の発展はありません。

本年も、我々商店街は一体となつて、魅力ある街の創出に向け努力を続けるとともに、地域コミュニケーションの担い手として、買い物弱者対策など新たな課題にも積極的に取り組んで参る所存であります。



群馬県火災共済協同組合

理事長 田部井 俊勝

新年、明けましておめでとうございます。

群馬県中小企業団体中央会会員の皆様におかれましては、希望に満ちた爽やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、当組合の共済事業推進につきまして格別なるご高配を賜り、心から厚く感謝と御礼を申し上げます。

さて、昨年の日本経済を振り返りますと、長引く円高やエコカー補助金の終了などにより、ようやく回復基調にあつた国内需要も後半からやや減速傾向にあります。また、尖閣諸島や竹島をめぐる国際問題の影響もあり、今後の国内景気には一層不透明感が増してきております。

このような状況の下、当組合としては、「ぐんま共済」ならではの役割やその重要性を改めて深く認識し、事務処理のスピード化はもちろん、組合員皆様への更なるサービスの向上に努めて参る所存

であります。何卒本年も倍旧のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、群馬県中小企業団体中央会並びに会員の皆様のご健勝とご発展を衷心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

群馬県トラック事業協同組合

理事長 武井 宏

昨年は、尖閣諸島国有化で中国との対立、それに伴う中国国内で大規模な暴動が発生し、経済に混乱を生じさせました。また、年末にかけては、シリア国内に加えて、イスラエルとパレスチナの対立が激化するなど中東情勢が緊迫化し、燃料価格の高止まり等厳しい環境が継続しました。

一方、東北地域での復興需要による荷動きが見られるものの、国会の混乱による経済対策の遅れから、トラック運送業界への影響も甚大で厳しい環境での新年を迎えました。

当組合は、昨年中国からのリスク回避を図る荷主企業の進出先と

して注目されるベトナムへ、創立60周年記念事業として海外視察を実施しました。荷主企業の状況を現地で直接見聞きし、物流業界での対応を考え、更には今後人手不足が考えられる物流業界での人材活用の可能性を探りました。

これからも社会構造が大きく変化し厳しい経営環境が続く中、組合の役割・機能を最大限活用して、組合員のための組合づくりに取り組んで参ります。

今後とも関係機関各位のご指導ご協力をお願い申し上げます。

群馬県電機商業組合

理事長 濱川 祐作

「ピンチをチャンスに」

我々家電業界は、地上デジタル放送移行に大きな役割を果たしたものの、その反動で（他にも原因はありますが）業界全体が大変厳しい状況へと落ち込んでいます。

しかしながら、東日本大震災や原発事故などを教訓に、環境問題や節電意識が声高に叫ばれ、庶民の間にも省エネや創エネへの関心が強く浸透してきています。

このピンチをチャンスととらえ、我々の強みである、お客様1軒1軒に合わせた「家丸ごと提案」を強力に推進することにより、新しい商売が生まれてくるものと確信しています。

これまでも業界は絶えず新しい商品で新しい市場を作り出して成長してきました。太陽光発電パネルやスマートハウス・スマートホームなど、将来に向けた提案商品はたくさんあります。積極的な活動により本年も組合員一同頑張ります。

群馬県印刷工業組合

理事長 吉田 吉太郎

新年を迎えお慶びを申し上げます。

混迷の時代、平成25年は業界や各社における行動改善の選定・決断をせざるを得ません。少量、高品質、短納期、得意先ニーズへの対応、更にはお得意様に直結した現場力・サービスの徹底が鍵となるでしょう。

受発注の選定・選別は現実化し、各社の経営力は現場力の違いから

企業間格差を生んでいます。

顧客との相対の信頼関係が共創されてこそ、私達の製品は活かされます。印刷は文化と言われて久しいのですが、紙媒体は人間の情感を受け入れる特性があり、IT媒体を吸収する新媒体として再び期待され、一部にあつてはその動向が試されています。

身近な共創活動により、試行錯誤の中から新業態が構築される時代にあります。本年こそ、その第一歩の年と期待しています。

群馬県旅館ホテル

生活衛生同業組合

理事長 市川 捷次

輝かしい新年を皆様とともにお慶び申し上げます。併せて平素のご指導ご愛顧に衷心より感謝致します。

一 昨年の東日本大震災と、これに伴う福島原発事故により、観光業界は大きな痛手を被り、まもなく丸2年が経過しますが、お客様は容易には戻っていただけません。

本年は、群馬ドステイネーションキャンペーンから引き続きいた観光キャンペーンも一段落したこと

から、本県の観光業界の真価が問われる年になります。

当組合では、日頃から安心・安全な業界づくりに取り組んでいるところであり、全国に誇れる「温かいおもてなし」で、更なる群馬県のイメージアップに努めていきたいと思っております。

本年も皆様のご指導・ご愛顧を心よりお願い申し上げます。

社団法人群馬県信用組合協会

会長 松井 誠

昨年前半の日本経済は、大震災の影響から何とか持ち直しつつありましたが、後半は、海外経済の減速が強まる中で急ブレーキがかかり、地域経済の根幹をなす中小事業者を取り巻く環境は、依然として厳しい状況に置かれています。

私ども信用組合は、地域密着型金融の重要な担い手と自負しておりますが、新生「ぐんまみらい信用組合」と「あかぎ信用組合」「群馬県信用組合」が連帯と協調により総合力を発揮して、今こそ組合員のため、地域のためにお役に立つよう一歩一歩着実に課題に取

り組んで参りたいと考えております。本年もよろしくお願い致します。

高崎卸商社街協同組合

理事長 松本 修平

新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

県内の経済は、総じて停滞しており、消費低迷に加え、円高や電気料金の値上げなど不安材料も多々あり、前途多難です。

厳しい経済状況ではありますが、当組合では、群馬県や高崎市、また関係機関のご助力を賜り、本年（平成25年）いよいよ展示会館の建て替えに着手します。

昭和41年の完成以来、問屋街のシンボルとして親しまれてきた現展示会館を取り壊し、安全で使いやすい新展示会館を建設します。平成26年初頭に完成し、同年2月頃より使用（貸出し）できる見通しです。

なお、工事期間中も「上州どつと楽市」や「問屋街わけあり大処分市」は継続実施致しますので、変わらぬご愛顧をお願い申し上げます。

ます。

本年は、当組合にとって多忙な1年となりますが、例年同様、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

群馬県電気工事工業組合

理事長 関口 慶也

東日本大震災の復興・復旧に国のスピード感ある対策が求められる中、中国の反日デモ、ヨーロッパ経済の立ち遅れ、年末の衆議院の解散・投票と、今後の新政権に日本経済の回復を期待する新たな年を迎えました。

公共事業の減少・住宅着工の伸び悩みと、工事受注の減少が続いています。当組合でも、組合員の高齢化・後継者不足による脱退など、組合運営とともに組合員の経営環境も大変厳しい状態が続いています。

電気工事業においては、今後期待される省エネ・節電設備への対応としての提案型営業活動に対して、技術と営業力向上のための各種講習会等を実施するなど、これからも組合事業運営の積極的な取

り組みを進めて参ります。本年もご支援・ご指導をお願いし新年の挨拶と致します。

群馬県不動産事業協同組合

理事長 谷田部 榮一

明けましておめでとございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は住宅着工件数が低迷し、取引の減少、土地価格下落に伴う手数料収入の減少、また、当組合におきましても、組合員の脱退など厳しい経営環境が続きました。

このような中、消費税増税を見据え、来客及び問い合わせは増加していますが、契約には至らないケースが多く、今後に期待しています。住宅取得は取引金額が高額であることから、消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要後の反動を抑制するための措置が法律の附則に盛り込まれていますが、業界の健全な発展のためにも、実際に効果のある施策を要望します。

結びに、本県経済の発展と皆様

のご健勝を祈念するとともに、不動産業界へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

協同組合前橋問屋センター

理事長 都丸正樹

昨年は、政争の影響から有効な経済対策が講じられず、社会経済は大変厳しい状況となり、地域経済の不透明感が増した1年となりました。

景気の低迷から消費力は減速し、物流を担う者にとって、的確な消費動向の把握やヒット商品の開発、地域物流を意識した経営が求められるなど、大変厳しい年でありました。このような時にこそ、組合員の総意と工夫によって、多くの皆様から必要とされる卸売業でなければならぬと思っております。

また、組合施設であります「前橋問屋センター会館」が、皆様のビジネスに活かされる施設として選ばれるよう設備の充実に努めて参ります。会議や講習会・研修会、そして販促用の展示会等、幅広いご利用をお待ちしております。

今年1年が皆様にとりまして最良の年になりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

群馬県再生資源

事業協同組合連合会

会長 上岡克己

明けましておめでとうございます。

再生資源業者は、従来から零細中小企業者が多く、「行政に頼りきっていた」と言っても過言ではありません。このため、「いつも自身であつて他者への依存体質が払拭されていない」のが実態と言えます。

事業の破綻は突然やつてくるのではなく、「今は事業経営がうまくいっている」と思つた油断と驕りが、既に危機の始まりだと感じます。それゆえに、「傍目八目（おかげはちもく）」がこの業界にとつて経営の必須であるし、自己点検の根幹となるヒントであります。

上方いろは歌に「負つた子に教えられ浅瀬を渡る」というのがありますが、再生資源という地域社会密着型の事業は、地域の特徴や住民のニーズを察知するため、謙

虚に市民から学ぶことが必要だと感じております。

群馬県鐵構業協同組合

理事長 佐藤良男

新年明けましておめでとうございます。

鉄骨業界の平成24年度鉄骨需要量の予想は、450万t（前年比プラス4.4%で予想）と、リーマンショック以前の需要水準までの回復にはほど遠いものの、緩やかながらも回復基調を継続しております。

このような現状の中で、群馬県鐵構業協同組合は、8月には、昨年の2月に続いて2度目となる「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」（中間業者対象）説明会を実施。9月には、東日本大震災の被災地である南三陸町を視察。11月には、「高力ボルト接合部について知っておくこと」の講習会を実施しました。同じく11月には、当組合として初めての企画である、同業者間で本首の情報交換を目的に「工場見学交流会」を実施。これはすべてオープン形式で工場・

設備・技術等について意見交換を行うもので、次世代の若者を中心に相乗効果や資質向上を図ることができました。

今後の建築需要は、工場関連の設備投資や再開発が一部で噂されているものの、地元案件は全体的に低迷しており、県外案件の受注が多いと予想されます。

受注単価では、赤字体質からの脱却のためにも適正価格への改善が大命題となっておりますが、組合員全員が一丸となり、一歩ずつ前進していく所存です。

年頭に当たり皆様のご健勝とご活躍を祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

群馬県美容業生活衛生同業組合

理事長 松本一郎

新年明けましておめでとうございます。

中央会及び関係各位の皆様にとりまして、輝かしい1年となりました。すよう謹んでお祈り申し上げます。

一昨年、福島県で開催予定だった「全日本美容技術選手権大会」は、大震災の影響で中止を余儀な

くされました。福島県美容組合の無念さや思いを愛知県美容組合が引き継ぎ、昨年、名古屋市内で全国大会が再開されました。1人ではどうにもならない事でも、仲間が集まれば、その思いや願いは達成できるという事の表れではないでしょうか。

現在、美容業界では、店舗数増大による過当競争時代となっており、この状況下、敵対するのではなく、仲間の思いをお互いにより深く理解し、業界全体を視野に入れながら影響し合う事が大切で、ここが同業組合の本質と言える部分だと思います。

「顧客主義」から視線を外す事なく、業界全体で消費者の事を考え続けることで、「徳ある組織」へと成長していけると思います。

中央会所属の各業種が協力し合いながらお互いに発展できますように、今年もよろしくご指導お願い申し上げます。

群馬県石油協同組合

理事長 小野里 克 巳

去年は東日本大震災の教訓で、

我々業界は地域のライフラインを支えるSSとして、災害時における供給基盤をより万全なものに強化するための第一歩の年となりました。

国の指導により「災害対応型中核給油所等整備事業」を推進し、県内50カ所を選定して自家発電設備を設置し、停電時も供給できる機能を備えました。経営環境が目まぐるしく変化する中、設備投資の負担は非常に厳しいものがありますが、災害時におけるライフライン維持のために重要な位置づけとなっていることから対応して参りました。

組合として、地域における石油の安定供給を確保すべく、各事業者が事業を継続でき、また再投資ができるよう今年も引き続き指導していききたいと思っております。

群馬県板金工業組合

理事長 桑 原 洋

昨年は、当組合にとりましては「創立50周年」を迎えた記念すべき年となりました。昭和38年に群馬県板金組合連合会として結成し、

半世紀にわたり組合員同士の親睦だけでなく、共に技術の向上を図り、業界として信頼を築いてきた年月でありました。

その間日本は、世界第2位の経済大国となるまで発展し、その後の大不況を経験、そして現在は、暗澹たる閉塞感に覆われています。

建築板金業の経営環境もますます厳しい状況となっております。

しかし、住宅建築の中で、建築板金業は重要な位置を占めております。軽量かつ強い金属屋根は、100年200年と長持ちする住宅を目指す需要の中で不可欠であります。

建築板金は、高度で伝統的な技能・技術であるとの自負の念を強く持ち、新たな決意の下、新年へと邁進していく所存であります。

群馬県葬祭霊柩事業協同組合

理事長 林 直 男

最近葬儀の簡素化が進んで少人数葬儀、いわゆる「家族葬」が増え、会葬者が激減、売上げが減少し、花輪が出なくなりまして。このため、業者としては少人数対応

のホールに改装したり、社員を女性スタッフにしたり、また、外注スタッフを利用するなど、業界として過去に経験することのなかった社会情勢になってきました。

都会ほど簡素化の流れが強くなり、葬儀業界としては、今後この流れを止めることはできないものと思われ、簡素で質素な葬儀式でも利益を出す経営ができなければ、いずれは廃業や倒産に結びついてしまいます。

会葬者がたとえ少なくても、感動を与え、価格も納得いただける葬儀セレモニーを目指し、研修や勉強会を今まで以上に実施して、生き残れる努力をしたいと思いません。

私たち組合は、2枚看板の1つ「群馬県霊柩自動車協会」として東日本大震災の遺体搬送を経験し、緊急出動の今後のあり方等、全国組織で勉強会等を行いながら、万が一の災害時に頼りになる葬儀社としての認知度を上げる努力をしています。

新年を迎え生き残りを賭け、葬儀社のレベルアップや緊急災害時の協力等で、社会貢献に力を注ぎたいと考えております。